

水稻新品種 “ミヤタマモチ”について

誌名	宮崎県総合農業試験場研究報告 = Bulletin of the Miyazaki Agricultural Experiment Station
ISSN	03888339
著者名	八木,忠之 西山,壽 小八重,雅裕 轟,篤 日高,秀光 黒木,雄幸 愛甲,一郎 吉田,浩一
発行元	宮崎県総合農業試験場
巻/号	26号
掲載ページ	p. 33-50
発行年月	1992年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



水稲新品種“ミヤタマモチ”について

八木 忠之²⁾・西山 壽³⁾・小八重雅裕⁴⁾・轟 篤⁵⁾
 日高 秀光¹⁾・黒木 雄幸⁶⁾・愛甲 一郎⁷⁾・吉田 浩一⁸⁾

はじめに

本品種は、宮崎県総合農業試験場（農林水産省指定水稲育種試験地）において育成されたものであり、平成2年6月“水稲農林糯307号”として登録、“ミヤタマモチ”と命名され、宮崎県の奨励品種に採用され、普及に移されている。なお、農林水産省の種苗法に基づき、平成3年11月19日に第2874号として品種当録された。ここに本品種の来歴・育成経過ならびに特性などの概要を報告する。

本品種の育成に関し、地方適応性に関する試験および各種の特性検定試験等について、ご高配をありがとうございました。各関係機関・各位に深く謝意を表す。

なお、本品種の育成に直接従事した研究員・研究補助員と、それぞれ関係した世代は附表-1のとおりであり、本報告の取りまとめは愛甲一郎が行った。

I 育種目標

本品種は、昭和55年に宮崎県総合農業試験場において、早生の栽培特性の優れた多収糯品種を育種目標に南海76号/みのたまもちの人工交配を行った。

本品種の系譜を示すと図-1のとおりである。

母本の南海76号は、早生の強稈で草姿は良く、安定的に多収・極良質ということにより、昭和54年に地方系統名を附してから11年もの間、各地において検討されてきたが、葉もちや白葉枯病に弱いなどの耐病性に欠点を持ち、平成2年より配布を中止した経緯を持つ。

父本のみのはたまちは、昭和52年に岐阜県農業試験場において育成された糯品種であり、稈は太く強稈で、穂は大きいと穂数が少ない典型的な穂重型であり、もち病や白葉枯病には強く、餅質

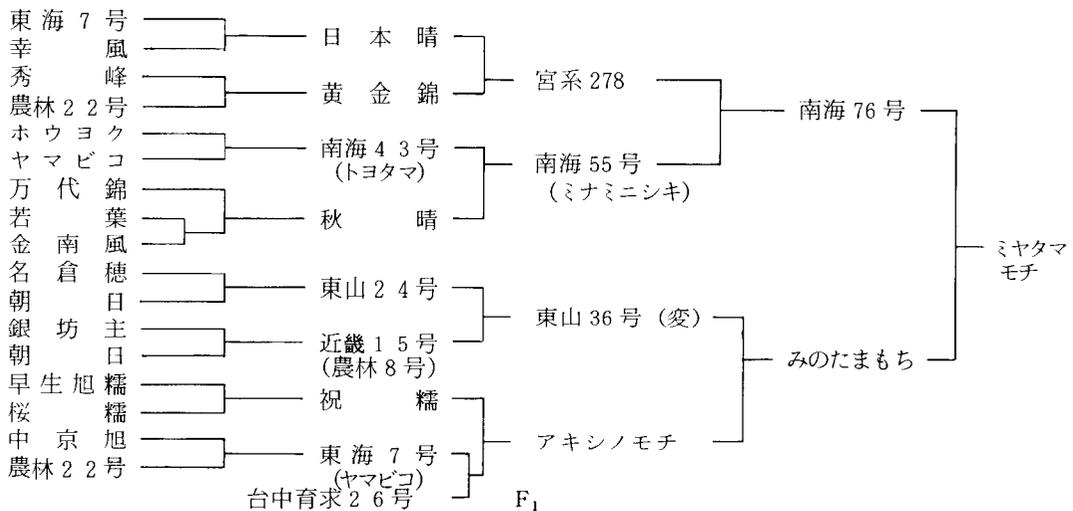


図-1 系譜

1) 宮崎県総合農業試験場作物部育種科
 2) 現・九州農業試験場水田利用部
 3) 現・福岡県農業総合試験場農産研究所育種部
 4) 現・宮崎県北諸県農林振興局
 5) 現・宮崎県総合農業試験場経営開発部生物工学科
 6) 現・宮崎県宮崎農業改良普及所
 7) 現・宮崎県西都農業改良普及所

8) 現・宮崎県えびの農業改良普及所

年次(昭)		55	56	57	58	59	60	61	62	63	平元		
世 代		F ₀ F ₁	F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀	F ₁₁	
供試数	系統群						1	1	1	1	1	1	
	系統					6	3	5	5	5	5	5	
選抜数	個 体	15	1600	1600	672x5	6x50	3x50	5x50	5x50	5x50	5x50	5x50	
	系統					1	1	1	1	1	1	1	
		29 15	835	773	7	3	5	5	5	5	5	5	
育成系統図						H157	H4215	H4143	H3586	H4221	H3536	H3346	
						∩	∩	∩	∩	∩	∩	∩	
		宮交80-41	世 I - 39	穂20	(H160)	(H4216)	(H4146)	(H3589)	(H4224)	(H3537)	(H3349)		
			世 II - 36		∩	∩	∩	∩	∩	∩	∩	∩	
						H162	H4217	H4147	H3590	H4225	H3540	H3350	
備 考							み系糯		南海糯				
							291	105号					

図-2 ミヤタマモチの育成経過

注) 育成系統図の () は選抜系統

・食味も良い品種である。粒大は従来品種の1.5倍程の極大粒であり、この形質は母親の東山36号(変)に由来するものである。

両品種の交配により、両品種の共通点である強稈はもちろんのこと、南海76号からは安定して良質である特性を、みのたまもちからは多収につながる極大粒の形質、いもち病や白葉枯病に対する耐病性等の特性を導入することができ、育種目標どおりの品種を育成することができたと思われる。

II 育成経過

ミヤタマモチの育成経過の概要は図-2のとおりである。

交配 昭和55年に宮崎県総合農業試験場において、南海76号/みのたまもちの人工交配を温湯除雄法により6月に行い、29粒の交配種子を得た。

初期世代 F₁ は、昭和55年7月にF₀種子29粒のうち15粒を温室内のポット栽培で養成し、

計654gの採種量を得た。F₂~F₃は昭和56年3月および8月にそれぞれビニールハウス内揚床水苗代に播種し世代を促進した。このときF₂は条長1m、条間10cm、播種巾4cmでF₁の個体ごと1条当たり約200粒、計8条の1,600粒を播種し、835個体を得た。F₃はF₂で得られた835個体より3粒づつ採種し、そのうちの1,600粒をF₂と同様な方法で播種し、773個体を穂別に採種した。F₄は穂別系統として1穂につき7粒をペーパーポット内に播種・育苗し、そのうち5株を条間30cm、株間15cmで移植、計627×5個体を供試した。このときの立毛状況は、早生~中生に分離し、止葉はやや垂れ、稈はややなびくものが多く概評はあまり良くなかった。第一次選抜ではこれらのことを考慮し、強稈で草姿の良いものに重点を置き21個体を選抜した。さらに室内にて、大粒の糯で外觀品質の優れた個体について第二次選抜を加え、早生を6個体、中生を1個体の計7系統を選抜した。

後期世代 昭和58年にF₅で単独系統として以後、系統育種法により選抜・固定を図った。

F₅の単独系統は7系統であったが、いずれも籾枯細菌病が多発し、全体的に草姿も乱れ気味で、うち3系統が分離していた。そこで残りの4系統のうち葉いもちが強く強稈で草姿の良いものを1系統選抜し、昭和59年にF₆よりみ系糯291として生産力検定試験、特性検定試験に、昭和60年にF₇より系統適応性検定試験に供試し、昭和61年にF₈より南海糯105号の系統名を附して関係県に配布し地方適応性を検討してきたものである。

この組合せからは、父本のみのおもちの持つ大粒形質に注目してその形質の導入を中心に選抜を行ったのが特徴である。

III 一般特性

ミヤタマモチの特性は表-1、2のとおりである。

熟期は、暖地ではあそみのり程度の中生の早に属し、ナンゴクモチより出穂期が9日程度、成熟期が14日程度早い糯種である。

ナンゴクモチに比べ、稈長は同程度、穂長はやや短く、穂数は少ないやや長稈穂重型である。葉巾は中位、葉色は中で、粒着密度は中、脱粒性は難である。熟色・登熟は良好で、下葉枯れもすくない。

IV 抵抗性

ミヤタマモチのいもち病抵抗性遺伝子型はナンゴクモチ、ヒヨクモチと同じPi-aと推定される(表-3)。葉いもち抵抗性はナンゴクモチ、ヒヨクモチよりも明らかに強く、黄金錦よりもやや強いやや強とみられる(表-4)。穂いもち抵抗性も表-5のように黄金錦にまさるやや強である(表-5)。

表-1 ミヤタマモチの一般特性(育成地)

品 種 名	移植時		稈		芒		ふ先色	穎色	粒着密度	脱粒難易	玄 米	
	苗丈	葉色	細太	剛柔	多少	長短					形状	大小
ミヤタマモチ	中	や濃	や太	や剛	稀	短	黄白	黄白	中	難	中	大
ナンゴクモチ	中	中	中	中	稀	短	黄白	黄白	中	中	中	中
ヒヨクモチ	や短	や濃	や細	中	稀	短	褐色	黄白	中	や易	中	中

表-2 ミヤタマモチの生育特性(育成地、標肥昭59~平元、多肥昭60.62~平元)

区 別	品 種 名	出穂期	成熟期	稈 長	穂 長	穂 数 (本/m ²)
		(月・日)	(月・日)	(cm)	(cm)	
標 肥	ミヤタマモチ	8.26	10.8	81	20.4	283
	ナンゴクモチ	9.4	10.22	82	21.0	381
	ヒヨクモチ	9.5	10.24	71	18.8	402
多 肥	ミヤタマモチ	8.27	10.11	76	20.0	288
	ナンゴクモチ	9.4	10.23	78	21.9	374
	ヒヨクモチ	9.6	10.24	67	19.5	378

表-3 ミヤタマモチのいもち病抵抗性遺伝子型の推定 (昭63. 東北農業試験場水田利用部稲育種研究室)

品 種 名	菌 株 レース	研54-20	TH68-140	研60-19	推定遺伝子型
		003	035	037	
ミヤタマモチ		S	R	MS	Pi-a
新 2 号		S	S	S	+
愛 知 旭		S	R	S	Pi-a

表-4 ミヤタマモチの葉いもち抵抗性

品 種 名	推 定 遺伝子型	育 成 地	熊 本 高 原	愛 知 山 間			
		昭59 発病 程度	平元 判定	昭60 発病 程度	平元 判定	昭61. 63 発病 程度	平元 判定
ミヤタマモチ	Pi-a	2.0	○	2.8	○	3.7	○
ナンゴクモチ	Pi-a	3.4	△	(4.2	△)	(6.5	△)
ヒヨクモチ	Pi-a	3.9	△	(3.3	×)	(5.0	×)
黄 金 錦	+	3.7	○	4.0	○	4.9	○
ツクシバレ	Pi-a	5.2	×	5.6	×	-	-

注) ① 畑晚播検定、()は供試年数不足
 ② 判定の記号は◎強、○やや強、△中、×やや弱、××弱
 ③ 発病程度は0(無)~10(全茎葉枯死)

表-5 ミヤタマモチの穂いもち抵抗性

品 種 名	推 定 遺伝子型	育 成 地	熊 本 高 原	愛 知 山 間			
		昭59~61 発病 程度	63~平元 判定	昭63 発病 程度	平元 判定		
ミヤタマモチ	Pi-a	4.0	○	(2.3	△)	4.7	○
ナンゴクモチ	Pi-a	5.2	△	-	-	-	-
ヒヨクモチ	Pi-a	5.5	△	(1.4	○)	-	-
黄 金 錦	+	3.7	○	(1.3	○)	6.6	△
ツクシバレ	Pi-a	(9	×	(0.9	○)	-	-

注) ① 育成地の昭59~61は罹病葉浸漬液散布、63~平元はビニールハウス内自然発病
 ② 判定の記号は◎強、○やや強、△中、×やや弱、××弱
 ③ 発病程度は0(無)~10(全穂罹病)

表-6 ミヤタマモチの白葉枯病抵抗性品種群の同定 (育成地、平元)

品 種 名	菌 群 菌 株 項 目	I		II		品 種 群
		T7174		T7147		
		発病度	判 定	発病度	判 定	
ミヤタマモチ		7.9	S	5.7	S	金 南 風
あそみのり		0	R	5.2	S	黄 玉
コガネマサリ		8.7	S	8.2	S	金 南 風
日 本 晴		8.1	S	7.9	S	金 南 風

注) 3株×3枚の止葉は剪葉接種 発病程度は0(無)~9(全茎葉枯死)

ミヤタマモチの白葉枯病抵抗性遺伝子群は金南風群に属し(表-6)、圃場抵抗性はナンゴクモチ、ヒヨクモチ並のやや強である(表-7)。

縞葉枯病抵抗性についてはコガネマサリ同様罹病性である(表-8)。

このように、葉もちと白葉枯病抵抗性は父本のみのみたまもちの持つ抵抗性をうまく導入することができ、一般栽培ではほぼ問題にならないレベルに改良できたと思われる。

耐倒伏性については、やや長稈ではあるが稈は太くやや剛でありナンゴクモチにまさる強稈といってよい(表-9、図-3)。このことは、両親は共に強稈であるのだが、南海76号の短稈穂数型に由来する強さというよりも、のみたまもちの稈質が太くて剛であるものに非常に類似する。

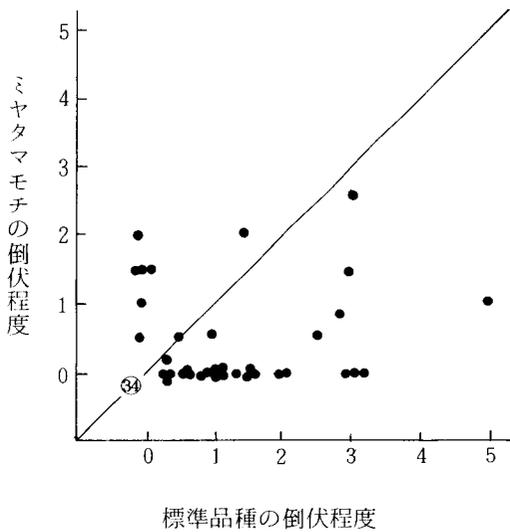


図-3 ミヤタマモチと標準品種との倒伏程度比較(奨励全国昭61~平元)
注) 0(無)~5(完全倒伏)

V 収量性

育成地および採用県(宮崎県)の奨励品種決定調査における成績を表-10に示した。

表-7 ミヤタマモチの白葉枯病抵抗性(宮崎総農試昭59~平元)

品 種 名	抵抗性品種群	発病程度	判 定
ミヤタマモチ	金南風	3.4	○
ナンゴクモチ	金南風	3	○
ヒヨクモチ	金南風	3	○
あそみのり	黄 玉	2.4	◎
日 本 晴	金南風	(3.3	△)
金 南 風	金南風	(5.8	×)

注)①出穂期前後にII群菌を噴霧接種()は供試年数不足
②発病程度は0(無)~9(全茎葉枯死)

表-8 ミヤタマモチの縞葉枯病抵抗性(岡山県農業試験場 北部支場)

品 種 名	平 元	
	発病株率	判 定
ミヤタマモチ	11.7	少
ミネユタカ	0	無
コガネマサリ	15.0	少

注)判定は無(0%)~多(40.1%~)

表-9 ミヤタマモチの倒伏の程度

品 種 名	育成地		宮崎県	宮崎県
	標肥	多肥	(本場)標肥	(現地)標肥
ミヤタマモチ	0.4	0.6	0	0.8
ナンゴクモチ	1.7	0.7	1.3	2.1
ヒヨクモチ	0.4	0	0	-

注)①育成地の標肥は昭59~平元、多肥6062~平元
宮崎県(本場)は昭61~平元、宮崎県(現地)は昭62~平元
②数字は0(無)~9(完全倒伏)

育成地ではナンゴクモチやヒヨクモチよりも明らかに多収である。宮崎県においてもナンゴクモチ・ヒヨクモチよりも明らかに多収で、現地試験でも比較品種よりもかなり多収であることがわか

る。これはミヤタマモチがやや短穂で穂数が少ないにもかかわらず、千粒重が約 1.5 倍と大粒であるためである。

また、全国に配布したときの試験結果からも大粒で多収であると評価したところが多数みられた (図-4)。

表-10 ミヤタマモチの収量性

施肥条件	品 種 名	育 成 地			宮崎県(本 場)		宮崎県(現 地)	
		全 重 (Kg/a)	玄米重 (Kg/a)	同左比率 (%)	玄米重 (Kg/a)	同左比率 (%)	玄米重 (Kg/a)	同左比率 (%)
標 肥	ミヤタマモチ	140.0	51.4	117	49.4	115	57.4	112
	ナンゴクモチ	144.0	44.0	100	43.0	100	51.2	100
	ヒヨクモチ	135.0	45.1	103	(41.7	97)	—	—
多 肥	ミヤタマモチ	129.4	48.1	117	—	—	—	—
	ナンゴクモチ	134.6	41.2	100	—	—	—	—
	ヒヨクモチ	123.1	40.7	99	—	—	—	—

注) 育成地 標肥 昭 59 ~ 平元、多肥 60. 62 ~ 平元
 宮崎県本場 標肥 昭 61 ~ 平元、() は供試年数不足
 宮崎県現地 標肥 昭 62 ~ 平元

VI 品 質

玄米の形状は、ナンゴクモチよりやや丸い中で、ナンゴクモチよりも長さ、幅、厚さともに長く、広く、そして厚い大粒である(表-11)。茶米の発生は少なく、光沢はやや大でナンゴクモチにまさる良質である(図-5)。粒厚分布はナンゴクモチ、ヒヨクモチよりかなり厚く分布する(表-12)。搗精試験については表-13 に示したとおりである。適搗精時における搗精歩合はナンゴクモチと同程度かやや劣り、ヒヨクモチよりは高い。

また適搗精時間はナンゴクモチ、ヒヨクモチより短い。胚芽残存歩合もナンゴクモチ、ヒヨクモチより低い。ただミヤタマモチは大粒であるために高温による急激な乾燥や過乾燥、あるいは刈遅れ等により胴割米が発生しやすく、また過搗精により碎粒の発生が多くなる傾向があるので注意が必要である。

表-11 ミヤタマモチの玄米の形状(育成地)

品 種 名	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	長さ/幅	長さ x 幅
ミヤタマモチ	5.73	3.20	2.32	1.79	18.24
ナンゴクモチ	5.28	2.84	2.09	1.86	15.00
ヒヨクモチ	5.10	2.92	2.13	1.75	14.89

注) 平元、粒厚 1.9 mm 以上について 50 粒調査、3 反復

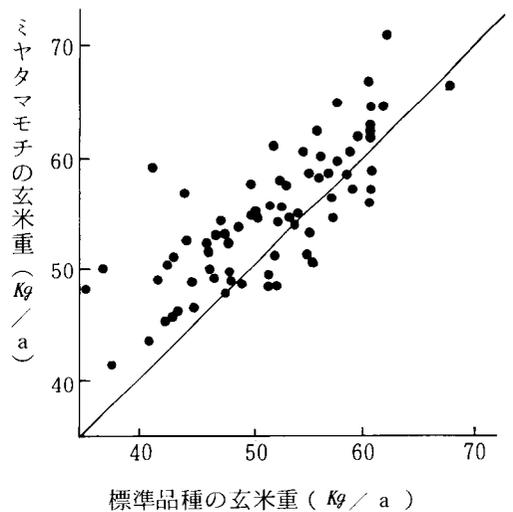


図-4 ミヤタマモチと標準品種との玄米重比較 (奨決全国昭 61 ~ 平元)

表-12 ミヤタマモチの玄米の粒厚分布(育成地)

品 種 名	重 量 (%)							
	2.2mm以上	2.1	2.0	1.9	1.8	1.7	1.6	1.6mm未満
ミヤタマモチ	82.5	11.2	3.1	1.3	1.3	0.5	0.1	
ナンゴクモチ	0.1	3.5	34.4	44.2	14.4	2.9	0.4	0.1
ヒヨクモチ	13.4	44.6	28.8	7.0	4.2	1.7	0.3	

注) 平元、玄米 200 g 7 分間 2 反復

表-13 ミヤタマモチの搗精度(育成地、平元)

品 種 名	玄米水分 (%)	搗 精 歩 合 (%)				白 米 白 度				胚 芽 残 存 歩 合 (%)			
		搗 精 時 間 (秒)				搗 精 時 間 (秒)				搗 精 時 間 (秒)			
		60	70	80	90	60	70	80	90	60	70	80	90
ミヤタマモチ	13.0	89.4	88.8	87.5	86.3	55.3	56.9	57.7	58.1	12.5	6.8	5.0	3.5
ナンゴクモチ	12.7	91.3	90.0	90.0	89.4	48.8	49.9	51.6	52.9	23.5	18.5	13.8	9.8
ヒヨクモチ	13.4	90.6	90.0	88.8	88.1	51.1	52.5	53.6	55.1	42.8	35.3	21.5	16.0

注) *印は適搗精、Kett TPⅡ型を使用、80 g を 2 反復供試。
胚芽残存歩合は 200 粒 2 反復調査。

VII 餅質・食味および加工適性

餅質および食味については表-14 に示したとおりである。家庭用餅つき機でついた餅生地の外観は、ナンゴクモチよりもきめ細やかでつやがあり白っぽく形がくずれにくい。また、焼餅にしたときの食味についてはこしが強くナンゴクモチと同程度である。

理化学的特性については餅生地はナンゴクモチよりも粘着力が弱く柔らかで、炊飯米では逆に粘着力が強くて硬いという特性を示した(表-15)。

加工適性については、米菓(かきもち、あられ)について2社、和菓子について1社の加工業者に依頼し、その適性を検討してもらった。

米菓にした場合(表-16)、外観、一枚の厚さ、ボリューム、食味については従来の品種と同等の製品品質を示した。また、大福餅や羽二重餅(はぶたえもち)等の和菓子の材料となる求肥(ぎゅうひ)にした場合、口あたりが良く、柔らかで硬くなりやすく、色白で従来のものよりすぐれている。最中(もなか)にした場合は、皮の目づまりが緻密で形がくずれにくい、口の中では溶けやすく、品質も良いというコメントをいただいた。

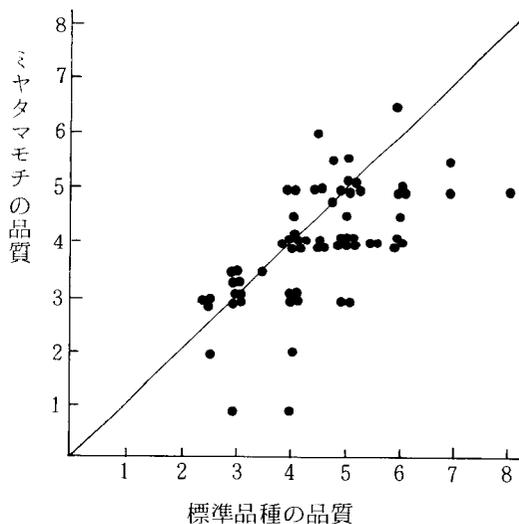


図-5 ミヤタマモチと標準品種との品質比較 (奨決全国 昭61~平元)

注) 2(上中)~8(下中)

しかしながら、米菓の場合、一次加工で餅にしたときに従来の品種よりも硬化する時間がやや遅く、作業行程上でのロスが生じることが指摘された。また、求肥や最中の原料となる餅粉をつくる過程の製粉特性については、粉にする前の前処理(吸湿)に時間がかかり、砕粒が多いと吸湿に

ムラが生じやすいということも指摘された。

前にも述べたが、ミヤタマモチは、高温による乾燥や過乾燥により胴割れが生じやすく、精米時に砕粒のでる割合が高くなる特性をもっている。

このことは、適期刈取や乾燥調製がミヤタマモチの品質はもちろんのこと加工適性をいかに最大のポイントとなるであろう。

表-14 ミヤタマモチの餅質・食味特性(育地)

品 種 名	年 度	搗精歩合 (%)	白米白度	砕米歩合 (%)	伸ばし(50g)		餅鏡 (500g)				餅食味		
					10分後	30分後	10分後		30分後		(焼餅)	(総合)	(外觀)
							高さ (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	直径 (cm)			
ミヤタマモチ	昭 61	89.9	53.3	1.8	83.3	35.3	4.0	12.5	3.0	13.7	1	—	—
ナンゴクモチ		89.3	53.2	0.5	106.0	32.0	4.0	11.8	3.0	12.8	3	—	—
マンゲツモチ		89.5	54.8	0.8	78.7	32.7	4.0	12.8	3.0	13.0	2	—	—
ミヤタマモチ	平 元	85.5	56.5	—	87.1	47.5	4.1	12.0	3.9	12.3	—	0.25	0.42
ナンゴクモチ	元	83.1	51.0	—	53.8	28.1	4.1	12.0	3.9	12.3	—	0	0

注) 餅食味の焼餅は順位。総合、外觀は-5(不良)~5(良)

表-15 ミヤタマモチの理化学的特性(テクスチュロメーター測定値、宮崎総農試化学部、新形質米研究予算による)

品 種 名	硬さ	付着性	硬さ		粘着力	バランス度	凝集性	平均粘着力	備 考
			粘着性	粘着性					
ミヤタマモチ	0.81	2.31	0.35	0.30	0.37	0.77	1.89	餅生地	
ナンゴクモチ	0.96	2.61	0.37	0.42	0.44	0.70	2.95		
ミヤタマモチ	2.14	0.29	7.38	0.35	0.16	0.60	0.40	炊飯米	
ナンゴクモチ	1.69	0.20	8.45	0.22	0.13	0.60	0.27		

注) 家庭用餅つき機でついた餅生地を測定。1.5V 2.7mmのクリアランス、炊飯米は1.5V 0.2mmのクリアランス

表-16 ミヤタマモチの米菓加工適性(平元、亀田製菓新形質米研究予算による)

	(1) かきもちタイプ米菓の製品品質測定		(2) あられタイプ米菓の製品品質測定	
	ミヤタマモチ	新潟ヒデコモチ	ミヤタマモチ	新潟ヒデコモチ
1枚重量(g)	5.83	5.81	ポリューム	1535
幅×高さ(mm)	64.5×46.9	66.3×46.6	(g/10リットル)	1550
1枚厚さ(mm)	9.72	9.23		
10枚ポリューム(mm)	133.6	138.8		

注) 常法糯米菓製造試験

VIII 奨励品種採用の理由と適応地帯

宮崎県における平成元年度の普通期栽培用糯種の作付面積は、591haで、うちナンゴクモチ(32%)、ヒヨクモチ(22%)、マンゲツモチ(12%)、日向糯(17%)で県内普通期栽培地帯に点在的に栽培されている。

ナンゴクモチ、マンゲツモチ、日向糯は長稈で倒伏しやすく、収量性も不十分であり、また、ヒヨクモチは、強稈、多収だが、いもち病、品質が不安定であるため、これらの品種に替わる強稈多収で栽培特性のすぐれた良質糯品種が要望されていた。

ミヤタマモチはナンゴクモチよりも11日程度

熟期が早く、マンゲツモチより7日程度遅い中生種で、ナンゴクモチ、マンゲツモチより耐倒伏性がすぐれ、また、ナンゴクモチ、ヒヨクモチより品質、耐病性がすぐれている。穂数は少ないが、玄米千粒重が既存品種の約1.5倍程度大きく多収で、餅質もすぐれており、今後、宮崎県の普通期品種の主力とすることによって、糯種の安定生産向上に貢献できるものと期待される。

以上のことから、県内普通期栽培地帯のヒヨクモチ、日向糯の全部とナンゴクモチとマンゲツモチの一部に替えて約500ha程の普及が見込まれる。

ミヤタマモチは、昭和61年から4年間にわたり地域適応性が検討されてきており(表-18、図-6)、良質、多収ではあるが、大粒という特性と加工適性との関係が未検討であったため、継続された府県が多かった。

幸いにも、前述したとおり加工業者の試験では加工途中での若干の問題はかかえているものの従来の糯品種とそんじょくない製品品質をもつものであることが明らかにされた。

ミヤタマモチは、糯種にしては良質・多収・強稈で加工適性もあり病害に関してもまとまった抵抗性を持つというバランスの良い品種である。

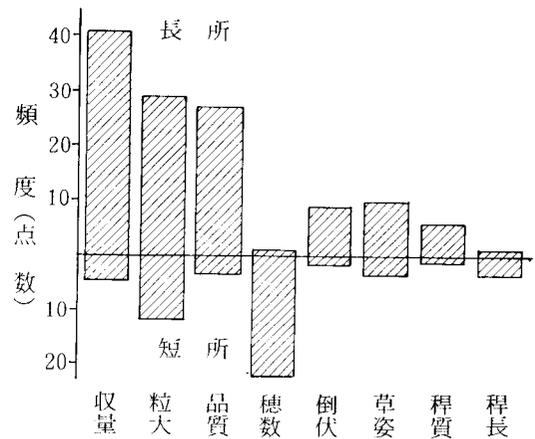


図-6 ミヤタマモチの形質評価一覧 (昭61～平元)

表-17 主要品種の作付動向 (宮崎県)

熟期	年次 品種名	昭60	昭61	昭62	昭63	平元	
		比率 (%)	比率 (%)	比率 (%)	比率 (%)	作付面積 (ha)	比率 (%)
早生	マンゲツモチ	13	17	13	15	72	12
	ナンゴクモチ	61	60	61	60	187	32
晩生	ヒヨクモチ	0	0	0	24	130	22
	日向糯	26	23	26	—	101	17
	その他	—	—	—	—	101	17
糯合計		100	100	100	100	100	100
糯作付面積 (ha)		685	645	583	462	591	
水稲作付面積 (ha)		29,136	30,700	28,200	28,200	27,700	

表-18 配布先における概評一覧

試験地名	昭 61	62	63	平元
岐阜センター	×102			
静岡本場	○109	○ ¹⁰² ₁₀₃	× ¹¹⁸ ₁₀₃	
愛知本場	△×91			
三重本場			○△114	△ 112
大阪センター			○ 109	△ 110
兵庫本場			△ 108	△ 112
奈良本場			○△115	○△ ¹²⁹ ₁₄₂
和歌山本場			△ 108	○△104
岡山本場			△× 96	
広島本場			× 114	
山口本場			○△109	○△107
徳島本場	△ 95	△ 111	△ 97	× 109
香川本場	×111			
愛媛本場	○ 103	◎○105	○ 100	○ 99
高知本場	△ 106	△ 106	△ 109	× 100
福岡本場	△ 105	△ 95	× 103	
福岡鉾害		△ 106		
佐賀本場	△ 98	△ 93	○△ 98	△ 102
佐賀三瀬	× 96			
長崎本場	△ 107	△ 96	△ 102	× 99
熊本センター	△ 91	△ 108	○ 112	○ 93
熊本高原			△ 90	△ 103
熊本球磨			△ 116	△ 109
大分センター	△ 99	△ 99	○ 112	○△ ¹⁰³ ₁₀₃
大分久住			△ 105	△ 109
宮崎本場	○ 119	◎○106	△ 119	(奨) 117
鹿児島本場	△ 94	△ ¹³⁷ ₁₃₆		

注) (奨) : 奨励品種候補 ◎ : 有望 ○ : やや有望
 △ : 継続 × : 打切り
 数字は対標準収量比率 (2 段の場合は上段標肥、下段多肥)

摘 要

宮崎県総合農業試験場で育成された水稲新品種“ミヤタマモチ”は、昭和 55 年に交配した〔南海 76 号/みのたまもち〕の後代から育成されたもので、平成 2 年に農林糯 307 号として登録され、宮崎県が奨励品種に採用し普及に移している。その主な特性は次のとおりである。

- (1) 出穂期は 9 日、成熟期で 14 日程ナンゴクモチよりも早い中生の早に属する糯種である。
- (2) 稈長はナンゴクモチと同程度、穂長はやや短く、穂数は少ないやや長稈穂重型品種である。
- (3) 止葉やや立ち登熟は良く強稈であり、収量性はナンゴクモチにまさる多収である。
- (4) 外観品質は極大粒でナンゴクモチより良く、食味は同程度である。
- (5) 加工適性は良く従来品種と同程度かそれ以上の製品品質を示す。
- (6) 葉もち、穂もち抵抗性はともに黄金錦にまさるやや強である。
- (7) 白葉枯病抵抗性はヒヨクモチ並のやや強である。

以上のような特性から、暖地、温暖地西部の平坦地および山間地に適する品種である。

IX 栽培上の注意

- (1) 穂数が少なく強稈であるので基肥を増肥がちになるが、過度の施肥をひかえ良質米生産に努める。
- (2) ふ先色が黄白なので、脱穀調製で粳種が混ざらないように留意する。
- (3) 大粒なので、選粒に留意する。
- (4) 刈遅れおよび急激な乾燥によって、搗精時に碎米が発生する場合がありますので留意する。
- (5) 縞葉枯病には罹病性なので、適期防除に留意する。

X 命名の由来

宮崎県で生まれた糯で、南国の明るさと粒が大きく玉のように豊満であることを意味する。(宮玉糯)

参考文献

- 1) 食糧庁長官官房調査課(1991) : 平成 2 年産米穀の品種別作付状況、食糧庁調査課、2 資料 No. 7
- 2) 岐阜県農業試験場(1977) : 水稲「みのたまもち」について

< 附表-1 >

本品種の育成に直接従事した研究員および研究補助員はつきのとおりである。

氏名	昭55 56 57 58 59 60 61 62 63 平元											備 考	
	F ₀	F ₁	F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀		F ₁₁
西山 壽												○	福岡県農総試
八木 忠之												○	九州農試
日高 秀光												○	現在員
愛甲 一郎												○	宮崎県西部農改
轟 篤												○	宮崎県農総試
小八重雅裕												○	宮崎県北諸農振
黒木 雄幸												○	宮崎県宮崎農改
吉田 浩一												○	宮崎県えびの農改

以上の他、永野充(昭55~56)、藤茂フジヨ(昭55~57)、横山裕至(昭55~58)、福塚重信(昭59~60)、小村強(昭60~平元)、野沢弘志(昭61~62)、横山助成(昭63~現)が研究補助員として育成に従事した。

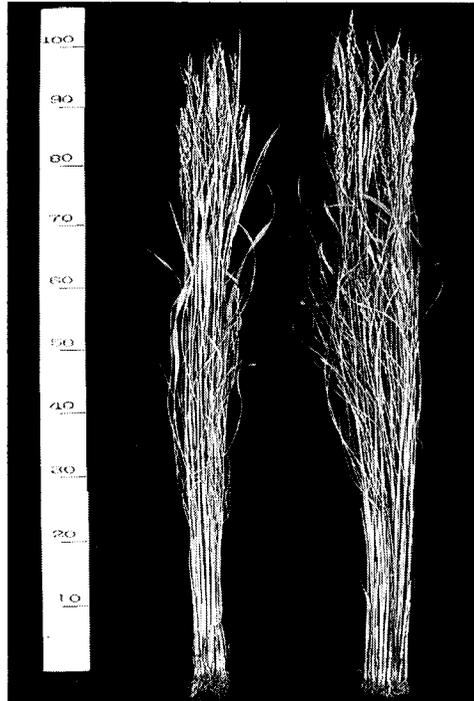


図-7 株標本
(左 ミヤタマモチ 右 ナンゴクモチ)

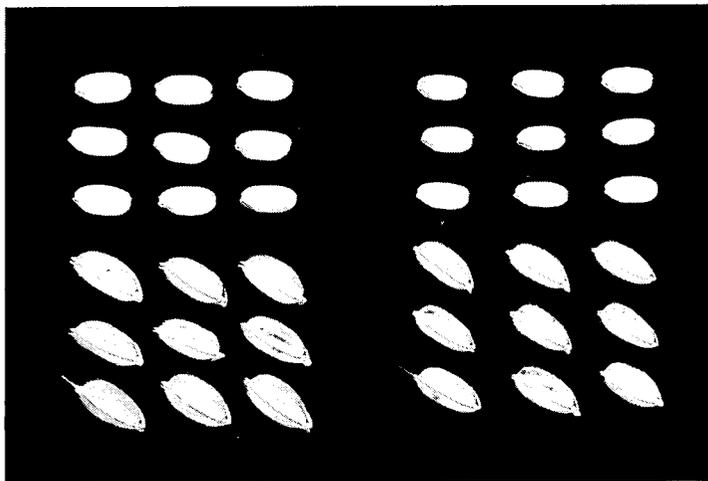


図-8 粳及び玄米
(左 ミヤタマモチ 右 ナンゴクモチ)

A New Rice Cultivar "Miyatama-mochi"

T. Yagi, H. Nishiyama, M. Kobae,
A. Todoroki, H. Hidaka, Y. Kurogi,
I. Aikou, K. Yoshida

SUMMARY

A new glutinous rice cultivar with very large grains "Miyatama-mochi" was developed from a progeny of a combination of Nankai 76/Minotama-mochi at Miyazaki Agricultural Experiment Station. The crossing was conducted in 1980. The progeny was registered in the official list of rice cultivars as "Norin-mochi 307" by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries in 1990, and has been cultivated in Miyazaki prefecture since 1991.

The characteristics of the new variety are as follows :

1. Heading time of Miyatama-mochi is nine days earlier than Nangoku-mochi, which is one of the late maturing standard glutinous cultivars. Maturing time is fourteen days earlier than Nangoku-mochi. It belongs to medium-early maturing group of glutinous cultivars.
2. The plant type is slightly longer stature and panicle weight type with same culm height, slightly shorter panicle length and less panicle number, when it is compared to Nangoku-mochi.
3. It has strong lodging resistance and has slightly erect flag leaves, good ripening. The productivity is higher than Nangoku-mochi.
4. Although it has very large grains showing 30 mg/grain in brown rice, it has better quality than Nangoku-mochi. The eating quality is same as Nangoku-mochi.
5. Processing suitability in cake production is same as standard varieties.
6. It has stronger blast resistance than Koganenishiki, with slightly strong resistance.
7. Bacterial leaf blight resistance is same as Hiyoku-mochi, with slightly strong resistance.

Because of these characteristics, Miyatama-mochi will be adaptable to low land and mountainous regions in western Japan.

<附表-2>

1 生育観察並びに生育調査(育成地)

1) 標肥栽培

品 種 名	年 次 (昭)	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	倒 伏 の 多 少	病 害 の 多 少			
								穂 い もち	白 葉 枯 病	紋 枯 病	籾 枯 菌 病
ミヤタマモチ	59	8.24	10.4	79	20.2	273	0	0	0	0.5	2
	60	8.25	10.5	84	20.4	327	1.7	0	0	1	3.3
	61	8.27	10.10	79	20.7	309	0.2	0.3	0.3	2	1.3
	62	8.29	10.13	71	20.6	240	0	0	0	1.3	0.3
	63	8.26	10.6	80	19.9	240	0	1	0	2	1.3
	平元	8.25	10.9	82	20.6	309	0.7	0.7	1	1	0.3
	平均	8.26	10.8	79	20.4	283	0.4	0.3	0.2	1.3	1.4
(標) ナンゴクモチ	59	9.1	10.18	85	20.3	380	1	0	0	-	0
	60	9.3	10.18	84	21.3	440	5.3	1	0	1	2.3
	61	9.3	10.25	80	21.4	406	0.7	0.7	0	3	1
	62	9.6	10.30	73	22.0	309	0.3	1.3	1.7	3.3	1.7
	63	9.4	10.18	88	20.8	353	0.3	0.3	0	1.7	1.7
	平元	9.3	10.20	82	20.3	400	2.5	1	3.7	0	1
	平均	9.4	10.22	82	21.0	381	1.7	0.7	0.9	1.3	1.3
(比) ヒヨクモチ	59	9.2	10.22	72	18.2	392	0	0	0	-	0
	60	9.5	10.18	75	18.6	440	2.3	1.7	0	2	2.3
	61	9.4	10.26	71	18.9	455	0	1	0	2.7	1.3
	62	9.7	11.1	62	19.6	317	0	1.7	0.7	5.3	2.3
	63	9.6	10.21	75	18.6	373	0	2	0	2	1.3
	平元	9.6	10.21	72	18.7	435	0.2	2.7	3	0	1.7
	平均	9.5	10.24	71	18.8	402	0.4	1.5	0.6	2.4	1.5

注) 倒伏、病害の多少は0(無)~9(甚)

2) 多肥栽培

品 種 名	年 次 (昭)	出 穂 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	倒 伏 の 多 少	病 害 の 多 少			
								穂 い もち	白 葉 枯 病	紋 枯 病	籾 枯 菌 病
ミヤタマモチ	60	8.25	-	81	20.8	378	1	0	0	2	2
	62	8.30	10.14	72	21.6	294	1	0	0	1.7	2
	63	8.27	10.7	77	18.9	231	0	0	1	0.7	1.7
	平元	8.26	10.10	75	18.8	249	0.3	0.7	1.7	0.7	1
	平均	8.27	10.11	76	20.0	288	0.6	0.2	0.7	1.3	1.7
(標) ナンゴクモチ	60	9.3	-	82	21.8	435	1	0	1	2	1
	62	9.7	11.2	72	23.2	376	0.3	0.8	1.7	3	2.3
	63	9.4	10.19	83	21.7	327	0.2	0.2	0	0.3	2
	平元	9.2	10.19	76	20.7	357	1.2	1.2	4.3	0	0
	平均	9.4	10.23	78	21.9	374	0.7	0.6	1.2	1.3	1.3
(比) ヒヨクモチ	60	9.5	-	72	19.2	438	0	1	0	2	2
	62	9.8	11.1	60	20.0	377	0	0.8	0.3	4.3	2.3
	63	9.4	10.21	71	19.5	331	0	2.3	0	0.7	1.3
	平元	9.4	10.20	66	19.3	364	0	3	3	0	0.7
	平均	9.6	10.24	67	19.5	378	0	1.1	0.8	1.8	1.6

2 収量及び品質調査

1) 標肥栽培

品 種 名	年 次 (昭)	全 重 (kg/a)	玄 米 重 (kg/a)	同左 標準 比率 (%)	屑 米 重 歩 合 (%)	玄		米		
						千 粒 重 (g)	茶 米	光 沢	品 質	検 査 等 級
ミヤタマモチ	59	136.3	52.9	105	1.2	29.8	-	-	4	1下
	60	144.1	53.9	138	1.8	29.5	-	6	3.8	1中
	61	158.4	52.1	111	1.5	28.4	-	6	3.7	2上
	62	114.0	47.9	136	0.5	29.2	-	5.2	4.7	3下
	63	135.0	48.4	112	2.4	30.2	1	6	4	3中
	平元	134.0	53.4	111	0.5	30.5	2	6	4	2下
	平均	140.0	51.4	117	1.3	29.6	1.5	5.8	4.0	2中
(標) ナンゴクモチ	59	162.3	50.3	(100)	2.7	22.0	-	-	3.5	2中
	60	145.9	39.2	(100)	9.0	21.1	-	6	4.3	1上
	61	156.2	47.9	(100)	2.4	21.2	-	6	4	3上
	62	107.2	35.2	(100)	2.3	20.8	-	4.7	5	3下
	63	151.3	43.3	(100)	5.5	22.0	2	5	5	3下
	平元	140.9	48.1	(100)	2.7	22.4	3	5	5	3上
	平均	144.0	44.0	(100)	4.1	21.6	2.5	5.3	4.5	2下
(比) ヒヨクモチ	59	157.6	54.8	109	2.4	22.4	-	-	4	2下
	60	130.7	37.1	95	7.9	21.0	-	7	4.5	1上
	61	145.7	46.9	98	3.3	21.6	-	6	4	3中
	62	89.7	33.3	95	2.7	21.2	-	4.5	5	規外
	63	141.4	44.0	102	6.2	22.2	2.7	6	5	3下
	平元	144.8	54.4	113	2.0	23.4	3.3	5	5.3	3中
	平均	135.0	45.1	103	4.1	22.0	3.0	5.7	4.6	3上

注) 玄米の茶米は0(無)~9(甚)、光沢は3(小)~7(大)、品質は1(上上)~9(下下)、検査等級の平均は1(1上)~9(3下)~10(規外)として算出した。

2) 多肥栽培

品 種 名	年 次 (昭)	全 重 (kg/a)	玄 米 重 (kg/a)	同 左 標 準 比 率 (%)	屑 米 重 歩 合 (%)	玄 米				
						千 粒 重 (g)	茶 米	光 沢	品 質	検 査 等 級
ミヤタマモチ	60	135.8	48.4	136	1.6	31.2	-	6	3.8	1中
	62	115.3	41.1	125	0.9	28.4	-	5.3	4.3	3下
	63	137.0	54.4	116	0.5	31.5	0.5	7	3.7	2上
	平元	129.6	48.5	97	0.4	31.6	1	6	4	1下
	平均	129.4	48.1	117	0.9	30.7	0.8	6.1	4.0	2中
(標) ナンゴクモチ	60	126.8	35.2	(100)	10.2	21.3	-	6	3.8	1中
	62	116.3	32.8	(100)	5.0	20.3	-	5.3	5.7	規外
	63	159.8	46.9	(100)	2.7	22.3	1.3	6	4.3	3中
	平元	135.4	50.0	(100)	1.2	22.8	1.7	6	4	2下
	平均	134.6	41.2	(100)	4.8	21.7	1.5	5.8	4.5	3上
(比) ヒヨクモチ	60	126.8	34.2	97	10.9	20.8	-	6	3.8	1中
	62	102.5	29.3	89	5.5	19.9	-	4.2	6.0	規外
	63	134.1	50.2	107	3.1	23.0	2.3	6	4.7	3上
	平元	129.1	49.2	98	1.0	23.7	3	5	5	2下
	平均	123.1	40.7	99	5.1	21.9	1.3	5.3	4.9	2下

3) 生産力検定試験耕種概要(育成地)

年 次 (昭)	播 種 期 (月・日)	移 植 期 (月・日)	施 肥 量 (kg/a 成分量)						区 制	一 区 面 積	栽 植 様 式
			標 肥 栽 培			多 肥 栽 培					
			N	P	K	N	P	K			
59	5.25	6.25	0.72	0.64	1.03	-	-	-	2	5.0 m ²	25×20cm 3~4本植
60	5.24	6.20	0.72	0.64	1.03	0.95	0.80	1.34	3	5.5	〃
61	6.4	6.23	0.61	0.64	0.85	-	-	-	3	5.5	〃
62	6.3	6.16	0.90	0.80	0.96	1.20	0.96	1.26	3	5.5	30×15cm 3~4本植
63	6.2	6.21	0.90	0.80	0.96	1.20	0.96	1.26	3	5.5	〃
平元	5.26	6.20	0.90	0.80	0.96	1.20	0.96	1.26	3	5.5	〃

注) 苗は稚苗、手植。

3 普及見込地帯の成績

1) 宮崎県

(1) 宮崎県総合農業試験場(本場)

栽培条件	品種名	年次	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 (%)	病害の多少					わら重 (kg/a)	玄米重 (kg/a)	同左比較比率 (%)	屑米歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	青光米 (%)	米沢 (%)	検査等級			
									葉いもち	穂もち	白葉病	紋枯病	籾枯細菌病											
標	ミヤタマモチ	昭61	8.27	10.3	87	20.8	323	0	1	1	1	1	1	1	92.0	50.8	119	2.5	27.3	1	1	7	4	1下
		昭62	8.27	10.5	82	20.7	286	0	1	1	1	1	1	1	73.9	45.9	106	4.0	27.6	2	1	7	5	2中
		昭63	8.26	10.2	83	20.4	313	0	1	1	1	1	1	1	72.5	52.4	119	2.0	28.2	1	2	7	4	2中
		平元	8.24	9.30	80	19.3	315	0	1	1	1	1.5	1	1	67.8	48.6	117	3.5	28.7	1	1	6	4	2中
		平均	8.26	10.2	83	20.3	309	0	1	1	1	1.1	1	1	76.6	49.4	115	3.0	28.0	1.3	1.3	6.8	4.3	2上
肥	(標) ナンゴクモチ	昭61	9.5	10.15	89	19.4	427	0	1	1	1	1	1	96.3	42.8	100	4.8	21.3	2	1.5	7	5	1下	
		昭62	9.7	10.15	91	20.9	440	3	1	1	1	1	1	103.8	43.5	100	3.8	20.6	3	2	5	6	2下	
		昭63	9.7	10.15	90	21.1	393	0	1	1	1	1	1	98.4	44.0	100	2.7	20.4	2	2	7	5	3上	
		平元	9.3	10.16	87	18.5	402	2	1	1	1	1	1	96.8	41.6	100	3.4	21.2	1	2	6	5	3上	
		平均	9.6	10.15	89	20.0	416	1.3	1	1	1	1	1	98.8	43.0	100	3.7	20.9	2.0	1.9	6.3	5.3	2下	
栽培	(比) マンゲツモチ	昭61	8.21	9.23	87	21.0	398	0	1	1	1	1	1	75.9	42.9	100	3.6	21.2	2	1.5	7	3	1下	
		昭62	8.22	9.28	83	21.4	315	0	1	1	1	1	1	60.2	43.9	101	3.7	20.7	1	1	7	4	2上	
		昭63	8.20	9.25	86	19.9	377	0	1	1	1	1	1	66.7	41.3	94	3.2	20.2	1	1.5	7	3	2上	
		平元	8.21	9.27	87	20.8	362	2	1	1	0	1	1	81.0	43.0	103	3.5	21.9	1	1	7	3	2下	
		平均	8.21	9.26	86	20.8	363	0.5	1	1	0.8	1	1	71.0	42.8	100	3.5	21.0	1.3	1.7	7	3.3	2上	
栽培	(比) ヒヨクモチ	昭62	9.6	10.15	72	19.0	405	0	1	1	1.5	1	1	96.8	43.2	99	3.6	21.0	2	3	5	6	規外	
		平元	9.1	10.10	70	18.5	420	0	0	1	1	1	1	84.9	40.1	96	3.8	21.3	2	2	6	5	3中	
		平均	9.4	10.13	71	18.8	413	0	0.5	1	1.3	1	1	90.9	41.7	97	3.7	21.2	2	2.5	5.5	5.5	3下	

注) 倒伏、病害の多少は0(無)~5(甚) : 光沢は3(不良)~5(中)~7(良) : 品質は1(上上)~9(下下)

耕種概要

場所	年次	播種期 (月日)	移植期 (月日)	本田施肥量 (N成分kg/a)			区制	一区面積 (m ²)	栽植密度	苗種類
				基肥	追肥	計				
本場	昭61	5.30	6.19	0.6	0.27	0.87	2	10	30×15cm	稚苗
	62	6.1	6.18	0.6	0.27	0.87	2	10	"	"
	63	5.30	6.21	0.6	0.27	0.87	2	10	"	"
	平元	5.24	6.15	0.5	0.3	0.8	3	10	"	"

注) 手植

(2) 現地の試験成績

地域	試験場所	品種名	供試年度	出成稈			穂穂倒			病害の多少					玄米重 (kg/a)	同左標準比率 (%)	千粒重 (g)	検査等級	判定
				穂熟期 (月日)	長 (cm)	長 (cm)	数 (本/m ²)	伏	葉いもち	穂いもち	白葉枯病	紋枯病	穀枯細菌病						
広域	都市	ミヤタマモチ	昭62	8.28	10.14	88	20.1	302	1	0	0	0	0	1	59.5	98	28.6	-	△
			昭63	8.20	10.1	90	19.4	336	0	0	0	0	2	1	60.6	100	30.9	2	△
			平均	8.28	10.7	91	20.0	385	0	0	0	0	0	0	52.0	113	29.7	5	○
	平均	8.25	10.7	90	19.8	341	0.3	0	0	0	0.7	0.7	57.4	103	29.7	3.5			
	霧島	えびの市	ミヤタマモチ	昭62	8.25	10.9	86	20.0	259	0	0	0	0	1	57.1	98	28.9	4	△
				昭63	8.24	10.7	90	18.4	403	0	0	1	0	1	1	72.6	111	28.9	2
平均				8.25	10.11	73	19.7	271	0	0	0	0	0	0	49.9	97	28.2	3	◎
平均	8.25	10.9	83	19.4	311	0	0	0.3	0	0.3	0.7	59.9	103	28.7	3				
小林地	市	ミヤタマモチ	昭62	9.1	11.6	86	21.5	412	2	0	0	0	2	1	58.1	100	20.4	6	△
			昭63	9.5	10.25	90	21.3	483	2	0	0	0	1	1	65.6	100	20.7	6	○
			平均	8.31	10.20	74	19.5	403	0	0	0	0	1	0	51.2	100	21.5	3	○
平均	9.2	10.27	83	20.8	433	1.3	0	0	0	1.3	0.7	58.3	100	20.9	5				
広域沿海地域	延岡市	ミヤタマモチ	昭62	8.23	10.7	78	19.5	290	1	1	1	1	1	41.2	95	29.4	4	△	
			昭63	8.22	10.3	89	19.3	362	0	1	1	1	1	1	60.0	115	29.2	1	○
			平均	8.23	10.5	84	19.4	326	0.5	1	1	1	1	1	50.6	105	29.3	2.5	
	国富町	ミヤタマモチ	昭62	8.14	10.1	81	20.2	238	1	1	1	1	1	43.5	100	21.9	3	◎	
			昭63	8.15	9.26	90	20.9	481	2	2	2	0	2	1	52.4	100	21.0	2	◎
			平均	8.15	9.29	86	20.6	360	1.5	1.5	1.5	0.5	1.5	1	48.0	100	21.5	2.5	
高千穂町	ミヤタマモチ	昭62	9.1	10.20	70	21.0	281	3	0	2.5	1	3	1	53.6	129	28.6	8	○	
		昭63	8.29	10.7	80	20.1	256	0	0	3	1	1	1	56.3	99	29.0	2	○	
		平均	9.2	10.13	88	19.7	285	0	1.5	2	0	2	1	55.5	106	28.8	2	◎	
平均	8.31	10.13	79	20.3	274	1	0.5	2.5	0.7	2	1	55.1	110	28.8	4				
西山間地域	西郷村	ミヤタマモチ	昭62	9.7	10.25	89	20.4	456	5	0	3	1	3	1	41.5	100	20.5	10	○
			昭63	9.8	10.18	88	20.6	397	0	0	2	1	1	1	56.9	100	21.1	2	○
			平均	9.14	10.26	91	19.1	483	0	1	2.5	0	2.5	1	52.3	100	21.6	5	
平均	9.10	10.23	89	20.0	445	1.7	0.3	2.5	0.7	2.2	1	50.2	100	21.1	5.7				
西郷村	ミヤタマモチ	昭62	8.29	10.23	86	20.2	316	4	0	2	0	1	1	52.0	136	26.9	5	◎	
		昭63	8.27	10.22	85	18.2	372	1	0	0	0	1	1	62.1	147	25.8	2	◎	
		平均	8.28	10.23	86	19.2	344	2.5	0	1	0	1	1	57.1	142	26.4	3.5		
西郷村	ミヤタマモチ	昭62	9.15	11.4	90	20.0	410	4	0	2	0	4	1	38.2	100	19.9	3	◎	
		昭63	9.10	11.6	83	19.0	483	1	0	0	0	1	1	42.3	100	20.0	2	◎	
		平均	9.13	11.5	87	19.5	447	2.5	0	1	0	2.5	1	40.3	100	20.0	3		
西郷村	マンゲツモチ	昭62	8.21	10.5	80	18.5	300	0	0	0	0	1	0	42.6	108	28.9	2	◎	
		昭63	8.13	9.27	86	19.8	328	2	0	0	0	2	0	39.5	100	21.0	2	◎	
		平均	8.18	9.28	88	20.5	332	3.5	1	1	1	2	1	37.0	100	20.3	5		
西郷村	マンゲツモチ	昭62	8.25	9.30	81	19.5	306	2	1	1	1	2	1	39.6	115	27.1	5	○	
		昭63	8.21	10.5	80	18.5	300	0	1	1	1	1	1	42.6	108	27.8	2	○	
		平均	8.23	10.3	81	19.0	303	1	1	1	1	1.5	1	41.1	111	27.5	3.5		
西郷村	マンゲツモチ	昭62	8.23	9.29	89	21.1	335	5	1	1	1	3	1	34.5	100	19.9	8	○	
		昭63	8.13	9.27	86	19.8	328	2	1	1	1	1	1	39.5	100	20.6	2	○	
		平均	8.18	9.28	88	20.5	332	3.5	1	1	1	2	1	37.0	100	20.3	5		

注) 倒伏、病害の多少は0(無)～5(甚)、検査等級は2(1中)～5(2中)

稲種苗特性分類一覧

項目番号	形 質	ミヤタマモチ		ナンゴクモチ		ヒヨクモチ	
		階 級	区 分	階 級	区 分	階 級	区 分
I-1	草 型	3	穂重型	6	偏穂数型	7	穂数型
I-2-1	稈 長	6	やや長	6	やや長	3	短
I-2-2	稈の細太	6	やや太	5	中	4	やや細
I-2-3	稈の剛柔	4	やや剛	5	中	5	中
I-3-2	止葉の直立の程度	4	やや立	5	中	4	やや立
I-4-1	穂 長	5	中	6	やや長	3	やや短
I-4-2	穂 数	3	少	6	やや多	7	多
I-4-3	粒着密度	5	中	5	中	5	中
I-5-2	穎 色	1	黄 白	1	黄 白	1	黄 白
I-5-3	ふ 先 色	1	黄 白	1	黄 白	3	褐
I-6-1	芒の有無と多少	1	稀	1	稀	1	稀
I-6-2	芒 長	3	短	3	短	3	短
I-6-3	芒 色	1	黄 白	1	黄 白	3	褐
I-7	玄米の形	5	中	5	中	5	中
I-8	玄米の大小	7	大	5	中	5	中
I-9-2	玄米の色沢		—		—		—
I-10	玄米の粒重	7	大	5	中	5	中
I-11-1	玄米のみかけの品質	3	上 下	4	中 上	4	中 上
I-11-2	玄米の光沢	6	やや大	5	中	6	やや大
I-11-6	腹白の多少		—		—		—
I-11-8	食 味	3	上 下	3	上 下	3	上 下
II-1	水陸稲の別	2	水 稲	2	水 稲	2	水 稲
II-2	うるち・もちの別	8	糯	8	糯	8	糯
II-3-1	出 穂 期	4	中生の早	8	晩生の晩	8	晩生の晩
II-3-2	成 熟 期	4	中生の早	8	晩生の晩	8	晩生の晩
II-6	耐倒伏性	3	強	4	やや強	3	強
II-7	脱 粒 性	3	難	5	中	6	やや易
II-9-1	いもち病推定遺伝子型	1-1	Pi-a	1-1	Pi-a	1-1	Pi-a
II-9-3	葉いもち圃場抵抗性	4	やや強	5	中	6	やや弱
II-9-4	白葉枯病圃場抵抗性品種群別	0	金南風	0	金南風	0	金南風
II-9-5	白葉枯病圃場抵抗性	4	やや強	4	やや強	4	やや強
II-9-7	縞葉枯病抵抗性品種群別	0	日本水稻型	0	日本水稻型	0	日本水稻型

指定種苗品質特徴表示基準に基づく品種特性表示

系 統 名 (育成場所)	栽培適地	用 途	早 稈	耐 倒 伏 性	耐 冷 性	い も ち 病	白 葉 枯 病	縞 葉 枯 病	玄 け 米 の 品 質	栽培上の注意
			晩 生 長	型	性	性	病	病	病	
ミヤタマモチ (宮崎県総農試)	近畿中国 四国九州	食 用 (もち用)	中 中	穂 重	強	—	強 強	無	上	刈遅れにならないよう適期収穫に注意する。